

平成31年度 学校評価実施報告書

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の創造と支え合い高め合う集団づくりの推進

具体的な取組

- ①全国学力・学習状況調査や学習確認プログラム（フォローアップシート・復習シートを含む）を計画的に取り組ませる。また結果の分析を行い、生徒の学力実態を把握するとともに、課題を明らかにすることで、授業改善や指導の工夫に取り組む。
- ②年間指導計画に基づき、授業のねらいを明確にした授業を展開する。また「目標に準拠した評価」や「指導と評価の一体化」の充実を図ることで、効果的な学習評価を実施する。
- ③校内研究授業（7月・11月実施）や支部授業研修会、研究授業週間における授業交流などを通して指導力向上に向けて研鑽を積み、各教科で問題解決的な学習や探究活動の充実を目指す。
- ④「学習のすすめ」や「学習の手引き」を作成し、日々の授業と家庭学習の連動を通して自学自習の習慣化を図る。授業と連動した課題の提示方法に工夫・改善を行う。
- ⑤定期テスト前や、長期休業期間を利用した補充学習を実施する。また土曜学習を活用し、自主的に学習する態度を育む。
- ⑥教科会の充実を図り、教員間の同僚性を高める。（時間割に教科会の時間を設定する。）
- ⑦支援が必要な生徒について、個別の指導計画・個に応じた指導計画を作成し、支援が必要な生徒への教職員の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会を実施する。
- ⑧多様な学習形態により、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成するとともに主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。
- ・生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
- ・問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
- ・全国学力学習状況調査や学習確認プログラムの結果。
- ・予習シートを仕上げたか。計画通りに学習を進めたか。
- ・全国調査生徒質問紙の結果。
- ・朝読書に積極的に取り組んでいるか。
- ・家庭学習は行っているか。

中間評価

各種指標結果（%の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

○学校評価アンケート結果

- ・「授業がわかりやすい」…3学年とも80～90%，保護者91.9%，教職員96.4%
- ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3学年とも80～90%，保護者94.4%，教職員100%
- ・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」…1年86.1%，2年96.7%，3年90.7%，
教職員（場面設定）100%
- ・「意見や考えを人前で発表している」…1年71.3%，2年73.5%，3年83.8%，保護者76.6%，
教職員（力がついた）100%，教職員（場面設定）100%

- 全国学力・学習状況調査結果（全国平均を100とした指数）
 - ・国語・数学・英語ともに京都市平均を上回っている…（国語+9.9，数学+20.4，英語+16.1
 - ・英語（話すこと）は京都市平均を上回った。（参考値のみ）
 - ・「1・2年の授業で，課題の解決に向けて自分で考え，自分から取り組んでいたか。」84.0%（全国74.8%）
 - ・「1・2年の授業で，自分の考えを発表するとき，うまく伝わるよう資料や文章，話の組み立てを工夫したか」65.4%（全国55.8%）
 - ・「話し合い活動で自分の考えを深めたり広げたりできているか」81.4%（全国72.8%）
- 学習確認プログラム結果（最新結果，全市平均を100とした指数）
 - ・1年生…国語，数学共に平均を上回り，+10
 - ・2年生…5教科とも平均を上回り，+12
 - ・3年生…5教科とも平均を上回り，+17
- 「朝読書に積極的に取り組んでいる」…教職員（重要度）100%，教職員（実現度）100%
- 全国学力・学習状況調査結果「平日の読書時間が1時間以上」…11.3%（全国12.4%）

自己評価

分析（成果と課題）

○学力向上に向けて，基礎基本の定着は概ね取り組んでいると考える。3学年とも学習にも前向きに取り組める環境ができていることが大きな要因になっていると思われる。また，学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。

○全国学力・学習状況調査から，3年生は学校の授業以外に，平日1日あたりの学習時間（塾などを含む）が「2時間以上」40%（全国35.5%）という結果が出ており学習に多くの時間を費やしている生徒が多いことがわかる。

○教員側は話し合い活動や発表の場の設定に積極的に取り組んでいるが，更に問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業について研究・実践する必要がある。

○朝読書にも落ち着いた環境のもと，しっかり取り組んでいる。また，3年生は「読書が好き」77.4%（全国68%）と高いが，「平日の読書時間が1時間以上」11.3%（全国12.4%）や「新聞をほぼ毎日，週1～3回以上読んでいます」12.0%（全国12.7%）という結果が出ているので，読書・新聞を読むことを励行したい。

分析を踏まえた取組の改善

今後はより発展的な学習活動を取り入れるために，問題解決的な課題の設定や探究活動を取り入れた授業実践が行われるような授業改善に取り組みたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・授業はわかりやすいか。生徒は意欲的に授業を受けているか。
- ・生徒は自分の考えや意見を発表することが得意であるか。
- ・問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業を行っているか。
- ・学習確認プログラムの結果検証・予習シートを仕上げたか。計画通りに学習を進めたか。
- ・朝読書に積極的に取り組んでいるか。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・全国学力・学習状況調査の結果が上位で素晴らしいので，今後も学力向上に努めてもらいたい。
- ・アンケートでは，「授業がわかりやすい」と回答している生徒が多いのに定期テストでの平均点が低いのはなぜなのかというご質問があった。

価	・確認プログラムの予習シート・フォローアップシートがあるということだが、高校のようにポートフォリオを持たせて振り返りをさせることで、気づきが生まれ自分自身の成長を見つめなおすことができるのではないかとのご意見をいただいた。 ・「新聞を読むこと」について、新聞を購読されているご家庭が減ってきている現状が話題となったので、学校として図書館に新聞を閲覧できるように設置したり、地域の方や新聞社のご厚意で中高生向け新聞を配布したりして新聞を読める環境づくりを行っていることを説明した。
---	--

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 ()内の数値は前期の結果、数値がない場合は同数	
自己評価	○学校評価アンケート結果 ・「授業がわかりやすい」…3 学年とも 80～90%，保護者 68.7%(93.0)，教職員（基礎基本）100%(96.4) ・「授業に意欲的に取り組んでいる」…3 学年とも 80～90%，保護者 90.9%(87.8)，教職員 100% ・「授業での話し合い活動に積極的に参加している」…1 年 88.7%(86.3)，2 年 80.0%(91.7)，3 年 89.1%(88.5)，教職員（場面設定）100%(92) ・問題解決にむけた考えを大切にした指導…教職員（実現度）96.3%(96)
	○学習確認プログラム結果（京都市を100とした指数，最新結果） ・1 年生…5 教科とも平均を上回り，総合+10(+9) ・2 年生…5 教科とも平均を上回り，総合+12(+18) ・3 年生…5 教科とも平均を上回り，総合+16(+11) ・「意見や考えを人前で発表している」…1 年 70.9%(76.4)，2 年 72%(69.7)，3 年 71.6%(83.1)，保護者 49.6%(74.5)，教職員（力がついた）100%(88)，教職員（場面設定）100%(96) ・予習シートの完成提出。計画的な学習…予習シートをやらせきる指導と補習の支援を実施。
	テスト前学習の計画表作成を指導。
	○「朝読書に積極的に取り組んでいる」…教職員（重要度）100%(100)，教職員（実現度）96.2%(87.5)
	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 ○学力向上に関して，基礎・基本の定着は概ね実現できていると考える。3 学年とも学習に前向きに取り組める環境ができていることが良い結果に結びついていると考える。また，学習確認プログラムに向けての取組（予習・復習シート）もやりきらせる指導を行っているため真面目に取り組んだ生徒は結果に結びついている。定期テストに関しても計画を立てて見通しを持って取り組むように指導している。また学習に困難を示す生徒には放課後の補習やテスト前学習会で指導を続けている。 ○授業改善に取り組み，生徒が「主体的・対話的に」学習活動に取り組む場作りに取り組んだ結果，どの学年でも80%以上の生徒が「授業に意欲的に取り組んでいる」と答えている。今後とも若手教員とベテラン教員の協働のもと授業改善に取り組んでいきたい。 ○教員側は話し合い活動や発表の場の設定に引き続き積極的に取り組んでいるが，今後，更に問題解決的な課題や探究活動を取り入れた授業について研究・実践する必要がある。 ○朝読書にも落ち着いた環境のもと，しっかり取り組んでいる。 ◎学校評価のアンケート結果より，重点目標『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業の創造に向けて教職員・生徒ともに努力できた結果，高い達成感を得たと考える。 次年度に向けては，より発展的な学習活動に取り組むためのさらなる授業研究，授業改善に取り組むことが必要であると考えます。

	そして2021年度より施行される次期学習指導要領にそなえ、「主体的・対話的で深い学び」が実現されるような授業を創造していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 今後も基礎・基本を着実に定着させるとともに、発展的な学習活動や問題解決的な課題の設定、探究活動を取り入れた授業改善に取り組み、深い学びが実現されるような授業改善・授業実践に取り組んでいきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 豊かな心を育てる「関係」を創り出し、「自尊感情」を高め、それらをお互いに大切にする「態度」を育てる取り組みを推進する。
具体的な取組 ①<u>道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えを共感できる心と、よりよい人間関係を築く自主的・実践的な態度を育成する。</u> ②<u>社会生活を送るうえで必要な規範意識を育成するとともに、命を大切にする心や思いやる心、感動する心など、生徒の豊かな人間性の育成を図る。</u> ③<u>自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を高め、一人一人の生徒が「自信と誇り」を持って自らの力を発揮できる、集団づくり、学級経営を実践する。</u> ④様々な教育活動を通じて、障害の特性や障害のある生徒の困りについて理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。 ⑤ワークシートの自己評価について「主体的・対話的で深い学び」につながるように文言を見直し、かつ結果を集計して生徒の実態把握とともに指導と評価の一体化を図る。 ⑥「こころのあゆみ」に関して、学校教育目標、学級目標をもとに、道徳の授業を通して自分自身の現状を捉え顧みて、年間を通して自己目標を設定させる。 ⑦「道徳だより」を月1回発行し、保護者へ情報提供を行う。
（取組結果を検証する）各種指標 ・年間計画に基づいて道徳の授業が実施されているか。道徳的価値の理解や道徳的態度・実践力が身につくよう指導されているか。 ・自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。 ・校内美化活動に積極的に参加し、学校の環境をよりよくしていく努力をしたか。 ・進んであいさつができているか。 ・普段の交流事業や学校行事、生徒会活動における総合支援学校との交流。 ・道徳の授業におけるワークシートの自己評価ができているか。

中間評価

各種指標結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

○学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしていける」１年 93.6％，２年 91.3％，３年 93.1％
「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」１年 95.8％，２年 89.6％，３年 88.9％
- ・保護者…「子どもと『道徳』の授業の話をする」69.7％

○自尊感情について

※学校評価アンケート結果

- ・生徒……「上京中学校は、人を大切にする学校」１年 98.4％，２年 97.1％，３年 98.6％
「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」
１年 93.5％，２年 94.5％，３年 94.6％
- ・保護者…「子どもは、自分の長所を知り、自分の良さを生かそうと努力している」89％
「子どもは、自分が大切にされていると感じている」96.4％
「子どもは、人を大切にする言動をしている」93.6％
- ・教職員…「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養われている」92.3％
「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」100％
「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を生かせる取組をしている」100％

※全国学力・学習状況調査

- ・「自分にはよいところがあると思う」84.7％（全国 74.1％）
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」88.7％（全国 81.5％）
- ・自尊感情が高められるよう、小中連携もしながら道徳を中心に指導を進めている。調査結果を昨年と比較すると、徐々に自尊感情が高まっている様子が見受けられる。

○美化意識

- ・「学校は、掃除など美化活動に努力している学校」…１年 95.1％，２年 94.5％，３年 98.7％
保護者 96％
- ・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」…１年 91.2％，２年 88.7％，３年 88.5％
- ・日々の清掃はもちろんのこと、環境委員や部活動を中心に校内美化に励んでいるが、一定数の生徒が他人任せになっている様子がうかがえる。

○あいさつ

※学校評価アンケート結果

- ・「あいさつができる学校・生徒」…１年 96％，２年 95.8％，３年 97.3％，保護者 91.1％，
教職員 100％
- ・「自分はあいさつができている」…１年 94.3％，２年 96.4％，３年 93.2％
- ・生徒会役員やPTAがあいさつ運動をするなど、あいさつの呼びかけを行っている。

○北総合支援学校との交流を行っている。

自己評価

分析（成果と課題）

○毎週道徳を行うことで項目に偏りなく指導を行うことができ、生徒たちも多様な価値観に触れることで、心の成長ができているように感じる。昨年度よりも道徳に関するアンケート結果から意欲的な姿勢が見受けられるが、他の回答と比較すると達成率はまだまだ低い。

	○自尊心の高まりはうかがえるものの、「そう思う」と答えた生徒は、他の回答と比較すると低い。 ○自分で環境を整えていくという美化意識の低下が見受けられる。 ○あいさつについては、学校全体としては高い評価をしている生徒たちだが、自らの評価では低い。
	分析を踏まえた取組の改善 ○引き続き道徳の指導を推進しながら、自己の、または集団の長所や課題をとらえ、改善していく取り組みの工夫が必要である。 ○自尊心に関しては、教職員や保護者と生徒の認識に多少ずれがあるので、よいところを認め、評価する場面を意識的に増やしていく。 ○美化活動に関しても、教職員が率先して活動に参加し、学習環境を自分たちで整えていくという雰囲気を作りたい。 ○あいさつに関しても、自らが進んであいさつをする雰囲気づくりを教職員・生徒が意識して進める。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・生徒の授業に向かう姿勢や保護者の道徳への関心。 ・自尊心（自己肯定感、自己有用感）を高める集団づくり、学級経営ができているか。 ・進んで美化活動に取り組んでいるか。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・道徳の教材についての質問があったので、答えが1つの内容ではなく、グループ討議を盛り込むなど「考え議論する」道徳を行っていることを説明した。 ・支援 PTA と共催で、年2回の花の植替えや、夏季の雑草取りを行い、校内の環境美化に協力をする。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 （％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算） ○学年教員で協力しながら、すべての項目について、年間計画に基づき指導できている。 ・生徒……「道徳の授業は今後の生活に活かしていける」1年 96.8％、2年 96.0％、3年 95.9％ 「道徳の授業では意欲的に取り組んでいる」1年 96.8％、2年 95.9％、3年 98.7％ ・保護者…「子どもと『道徳』の授業の話をする」29.0％ ○自尊心について ・生徒……「上京中学校は、人を大切にする学校」1年 98.4％、2年 96.0％、3年 98.6％ 「自分は、周囲から大切にされ、自分も人を大切にしている」 1年 96.8％、2年 89.1％、3年 93.3％ ・保護者…「子どもは、自分の長所を知り、自分の良さを生かそうと努力している」70.0％ 「子どもは、自分が大切にされていると感じている」92.3％ 「子どもは、人を大切にする言動をしている」91.0％ ・教職員…「生徒は、自分を大切にするとともに他者への尊敬・人権の尊重など実践的態度が養われている」92.3％ 「本校では、生徒のよいところを認めて適切に評価している」96.2％ 「本校では、生徒が学年やクラスの一員として個性を生かせる取組をしている」100％
--

	○美化意識 ・「学校は、掃除など美化活動に努力している学校」…1年 95.2%, 2年 90.7%, 3年 96.0% 保護者 82.9% ・「自分は掃除など、きれいな学校になるように努力した」…1年 96.8%, 2年 85.1%, 3年 90.6% ○あいさつ ・「あいさつができる学校・生徒」…1年 93.5%, 2年 94.7%, 3年 97.3%, 保護者 91.0%, 教職員 84.6% ・「自分はあいさつができています」…1年 98.4%, 2年 90.7%, 3年 94.6% ・生徒会役員やPTAがあいさつ運動をするなど、あいさつの呼びかけを行っている。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ○毎週道徳を行うことが当たり前になり、項目に偏りなく指導を行うことができていることで、生徒たちも多様な価値観に触れ、心の成長を自ら感じることができているように感じる。回し道徳の取り組みが効果的であったと感じる。 ○保護者の道徳への関心が、前回の結果よりも下回った。道徳が教科化された年度当初の方が高い関心をもっていたことが見取れる。関心を集めるような取り組みが必要とされる。 ○自尊感情の高まりはうかがえるものの、人を大切にする、また自分が大切にされている感覚を養えていない生徒が見受けられる。あいさつの項目が抱える課題とも共通するが、コミュニケーション力の低さが一因であると考えます。 ○自分で環境を整えていくという美化意識については、学年により高まりや低下が見受けられる。 ○あいさつについては、自己評価と他者評価に差が出る結果となった。あいさつは返せるが、自ら進んであいさつができる生徒の少なさを日頃感じる。能動的な行動が課題として残る。 分析を踏まえた取組の改善 ○自尊感情の高まりをめざした道徳での取り組みを継続し、能動的な行動ができる生徒を育てる。 また、生徒の良いところを認め、評価する場面を意識的に増やしていく。 ○保護者の道徳への関心を高めるため、道徳だよりの頻度を上げる。 ○美化活動に関して、教師と生徒とで学習環境を整えていく意識作りをする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	運動やスポーツ及び望ましい生活習慣の知識を身に付け、実践を通して健やかな体を育成する。
具体的な取組	①体育学習や運動部活動をより一層充実させ、組織的・計画的な安全管理を徹底し、生涯スポーツの楽しさが味わえる健康な体づくりを推進する。

- ②運動することの楽しさや爽快感を味わえるような体育的行事を通して、自ら進んで運動やスポーツに親しむ資質や能力を身に付ける。
- ③昨年度行った生活習慣アンケート結果より、課題解決に向けて朝食の重要性及び充実など保護者や家庭に向けて働きかける。
- ④薬物乱用防止教育、性教育、エイズ教育において正しい知識を理解させ、心や体を大切にする教育を保護者、生徒に向けて推進する。
- ⑤危機管理マニュアルの変更点を周知徹底する。また年2回の避難訓練のうち、1回は専門的な立場の方からの講話や体験を通して防災教育の充実を図る。学校教育全体を通して防災教育や防災管理を充実させ、自ら命を守る主体的態度や安心で安全な社会づくりの意識を高める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・朝食を毎日食べているか。毎日の起床・就寝時間。
- ・体力テストや体育的行事の内容や結果。
- ・薬物乱用防止教室、性教育において正しい知識を見つけ、自らの心身を大切にしようとしているか。
- ・避難訓練において自ら命を守る主体的態度が育っているか。

中間評価

各種指標結果 (％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算)

○学校評価アンケート

- ・「規則正しい生活を送っている」保護者 81.5%
- ・夏休み明けから中間テストまでの間、保健室来室者が急増した。9月には一日で来室者が30名を超える日があった。

○全国学力・学習状況調査結果

- ・「ほぼ朝食を食べている」92% (全国 93.1%), 「全く食べていない」1.3% (全国 2%)
- ・「ほぼ同じ時刻に寝ている」78.7% (全国 78%), 「全くしていない」4.7% (全国 4.2%)
- ・「ほぼ同じ時刻に起きている」94.7% (全国 92.8%)

○4月から5月に実施した体力テストの結果において、男女差はあるものの京都市平均を下回っている。特に「立ち幅跳び」、「長座体前屈」は低く、「握力」については前年度に比べ改善が見られた。各学年で見えてみると、学年が上がるにつれ、平均を超える種目が増えている。

○1学期に1年生携帯教室、2年生非行防止教室、3年薬物乱用防止教室を実施。

○避難訓練において、訓練の目的を知り、速やかに行動ができた。また訓練の後、各クラスで映像を使って災害が起きた時の家庭や地域での防災について確認をした。

自己評価

分析 (成果と課題)

- 規則正しい生活が送れているが、9月の体調不良生徒は、夏休みが明けて残暑が厳しかったこととやすぐテスト前に入ったこと、夏休みの終わりに学校閉鎖日や部活動停止等で部活動が休みになり、気がゆるんだことが一因と考えられる。
- 体力テストの結果より母集団の違いはあるが学年が上がると、平均値が全市平均に近づくか、または超える結果となっていることから、学年ごとに経過を見ていく必要がある。ただ、子どもたちの会話からカードゲームやスマホゲームへの依存が強いように思われる。
- 薬物乱用防止について、昨年度より保健の授業のカリキュラムに変更があり、2年生の保健の授業で学習する。そのため3年の薬物乱用防止教室で再度抑えることができる。
- 昨年度の地震での避難を振り返り、防災の大切さを考えることができた。

学 校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 ○昨年の調査から「ほぼ朝食を食べている」と回答が92.3%と高いことから、その食事内容を重視していきたい。 ○基礎体力の向上においては体育の授業の中で補強運動に取り組むだけでなく、長い目で見て運動をする、体を動かす大切さを伝えていきたい。 ○非行防止教室や薬物乱用防止教室は実施しているが生徒たちに身近な問題であることを感じさせるには、まず教師が研修することが重要である。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・朝食の食事内容をアンケート調査する予定である。また、朝食を食べていないという回答にはその理由を調査する。 ・体力テストを一つの目安に全市平均に近づける。学年ごとの結果を経過観察していく。
	学校関係者による意見・支援策 ・薬物乱用防止については、甘い誘いや売買がネット上で行われている現状を考えると、1人ひとりに具体的に薬物の恐ろしさを啓発していくことが大切である。今年度実施したサポートセンターの講師による防止教室は効果的だった。地域生徒指導連絡協議会をはじめ諸団体・関係機関と連携し、薬物乱用を食い止めていくための地域力を高めることが重要である。 ・非行に走る生徒の多くは、自尊感情の低さが見られるので、大切にされていると感じる取組や声かけをお願いしたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 ○体力テストについては、年度当初に行うため比較はできないが、2年生で持久走を行った結果、昨年より結果がよくなっていることは感じとれる。ただ、体育の授業の成果だけでなく、運動部の日頃の活動の成果も大きく、日ごろから運動をしている生徒と体育の授業以外に運動をする機会のない生徒との差を強く感じた。 年度当初に調査した令和元年度全国体力・運動能力・運動習慣調査（2年生対象）の結果から、特に男子で「学校の保健体育の授業以外に運動やスポーツをする時間」が京都市、全国平均を下回る。（女子は平均）また「卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいか？」という問いに対して、「思う」という回答が京都市・全国平均より低い結果となっている。（女子は高い） ○後期の避難訓練では上京消防署員の方に来校いただき、避難訓練の後、生徒を対象とする消火器の使い方や毛布を担架代わりにした人の運び方などの講習を受けた。また放課後は校内の防火施設についた教職員を対象に説明いただき、生徒・教職員共々有意義な講習であった。 ○防災においても避難の方法だけでなく、保健・道徳の時間において災害時の中学生の役割や活躍について考えることができた。 ○生活習慣アンケートの結果より学年が上がるにつれ、就寝時間が遅くなり、12時以降の就寝が1年生16%、2年生24%、3年生43%と睡眠時間が短くなる傾向にある。 ○生活習慣アンケートより朝食を「食べない・食べることが少ない」と答えた生徒の理由をみると「時間がない」、「食欲がない・お腹がすいていない・食べる気が起こらない」、「食べるより長く寝たい」などの理由が挙がっている。睡眠時間との関係を見ると、就寝時間が遅い、睡眠時間が少ない場合に朝食をとっていない生徒の割合が多い。
--

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ○3年間の見通しもって、体力の向上を図っていくこと。 ○体を動かすことの楽しさと生涯にわたり、運動を生活にとり入れることの重要性を伝えていく。 ○学校としては睡眠時間7時間の確保と睡眠の質の向上目指し、朝食を食べる習慣を100%に近づけることを目標としたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ○体育の授業で体力向上を意識することはもちろん、保健学習の中で運動の重要性や生涯スポーツにつながるような指導の工夫が必要である。 ○3年生においては受験勉強等により就寝時間が遅くなりがちではあるが、時間の確保と質の向上について、生徒に実践しやすい具体例を提示していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（４）学校独自の取組

重点目標 小中一貫教育＜K（烏丸）K（上京）P（プロジェクト）＞における重点目標を「自らの未来を切り拓き、しなやかに生きる子どもの育成」と設定し推進する。
具体的な取組 ○小中一貫教育における「目指す子ども像」を踏まえ、以下の取組を行う。 ・人を大切にする。 ・あいさつをする。 ・進んで学ぶ。 ・自分の考えを表現する。 ・地域を愛する。 ①小中の教職員が連携し合い、「中1ギャップ」の解消を念頭に置き、入学後も引き続き教科指導や生活指導を行う。 ②新入生の中学校入学に対する不安を取り除くために、部活動体験や授業体験、生徒会による学校紹介等の取組を行う。 ③授業交流や学力分析を通して、カリキュラムの連続性を考える。 ④小中合同で地域行事に参加し、小中ブロックでの家庭・地域との連携を進める。 ⑤小中合同研修会や小中間での公開授業などを進め、連携を深める。（「しなやかな道徳」研究発表） ⑥学校評価アンケートの内容項目の見直しを図る。 ⑦中学校ブロックにある保育所・幼稚園（鶴山保育所・京極幼稚園・みつば幼稚園）との連携を推進する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について小中で共通のアンケート項目を設定する。（人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。） ・小中連絡会を計画的に実施する。 ・保育所・幼稚園・小学校と中学校で開催する上京中ふれあいコンサートを行う。 ・小学校と中学校合同の研修会や、授業・部活動体験を行う。

・通信やホームページで学校の様子を情報発信する。

中間評価

各種指標結果（％の数値は「そう思う」「ほぼそう思う」の合算）

○学校評価アンケート結果

・「地域を愛し地域行事に参加」…1年 68.5% 2年 65.1% 3年 62.9%
教職員 92.3% 保護者 75.8%

○全国学力・学習状況調査結果

・「地域の行事に参加」…47.4%（全国 50.8%）
・「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」…42.6%（全国 39.4%）

○烏丸中学校校区とも合同で、また、地域の保育所・幼稚園にも参加してもらい、「KKP」として連携を密に活動を図っている。

○KKPの枠組みの中で、校長会や教務主任会を複数回実施している。

○夏季休業中に「KKP」合同研修会を行った。

○学校・学級通信の発行やホームページで情報発信を行っている。

自己評価

分析（成果と課題）

○地域・社会への関心に関する肯定的な回答が低い。保護者や教職員など大人の実感よりも、生徒の実感が低い。

○KKPの枠組みで校長会や教務主任会を実施することで、各校園の予定や活動内容を共有しやすく、連携を図ることが容易になった。

○今年度小中合同の「しなやかな道徳」研究指定校となり、研究テーマを「自己有用感や自己肯定感などの自尊感情を高める道徳教育の推進」と設定し、KKPの枠組みで道徳担当教師による道徳教育推進会議をもつことができた。

○夏季合同研修会では、道徳における自己有用感や自己肯定感の育成について、講演をいただいた。また、小中間で公開授業・研究協議に参加する計画をしている。

○夏季合同研修会の分科会では、分掌に分かれて、情報交換することができた。

○小学校の作品展に、中学生の作品を展示させてもらうことが可能となった。

○KKP挨拶運動として、年間2回、同じ時期に挨拶運動を展開し、児童生徒間だけでなく、地域とも連携して行えるよう計画をしている。

分析を踏まえた取組の改善

○KKP共通の「めざす子ども像」を共有し、地域の保幼小中が連携することで、地域も巻き込んだ活動を計画していきたい。

○後期に予定されているふれあいコンサート、授業体験、部活動体験において、計画段階から連携を密にし、保幼小中の連携のもとに開催する。

○年度当初の校長会や教務主任会の日程は、前年度のうちに確定しておく必要を感じた。

○校長会や教務主任会、道徳主任会だけでなく、様々な分掌・係での連携を図る工夫を考えたい。

○通信やホームページでの情報発信を活発にすると同時にPTAメール配信への加入率を上げ、特に災害等の情報連絡網を確立し危機管理体制を整えたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・小中一貫教育構想図に示した「めざす子ども像」について小中で共通のアンケート項目について検証する。小中で結果の共有・検証ができることを目標としたい。

	(人を大切にする。あいさつをする。進んで学ぶ。自分の考えを表現する。地域を愛する。) ・小中連絡会を計画的に実施し、保育園・幼稚園・小学校と中学校で開催する上京中ふれあいコンサートを行う。 ・小学校と中学校合同の授業研修会や、授業体験を行う。 ・通信やホームページで自校の様子だけでなく KKP の取組も情報発信をし取り組み内容を広く周知する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・京都市教育委員会指定「しなやかな道徳」を柱に、小学校から中学校にかけて自己有用感や自己肯定感の育成に努めてもらいたい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 ・小中で共通のアンケート項目を学校評価アンケートに取り入れ、その結果を元に、KKP 校長会や教務主任会で検討することが出来た。 ・KKP として、校長会（3 回）、教務主任会（4 回）、生徒指導部会（1 回）、研究主任会（1 回）を行えた。 ・「しなやかな道徳」研究発表・研修会に、校区小学校の教職員も参加した。 ・11 月 8 日に、小 6 授業体験を行った。 ・2 月 12 日に、小 6 部活動体験を行った。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・KKP 校長会、教務主任会で 2 中 4 小での共通理解を深められた。さらに、生徒指導部会や研究主任会を開き、さらに具体的な小中連携した取り組みができないかの検討を行った。 今年度の成果として、教職員間での小中連携は多方面にわたり深まったと考える。来年度の課題として、児童生徒間で直接関われる取組ができないかを検討したい。 ・「しなやかな道徳」指定をきっかけに、小中で道徳教育の在り方を検討できた。 ・授業体験、部活動体験を行うことで、来年度入学する小学生がスムーズに進学することの一助となった。烏丸中とも日時や内容をそろえることで、どちらに入学する児童にも公平な体験を行うことが出来た。 分析を踏まえた取組の改善 ・KKP 校長会、教務主任会、生徒指導部会、研究主任会の開催日時をできれば今年度中に、少なくとも来年度当初に決定したい。 ・児童会・生徒会間で交流できる活動がないかを検討したい。 ・今年度は研究指定を受けたこともあり、道徳を中心に小中合同で研修したが、来年度はどの分野で研修するかを検討したい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標
業務の効率化を図るとともに自分自身のライフワークバランスについて見つめなおす。
具体的な取組
①日常的に業務時間、退勤時間について呼びかける。 ②教職員が1人ひとりライフワークバランスの意識を持って業務遂行するように呼びかける。 ③会議の時間短縮と精選。
(取組結果を検証する) 各種指標
・出退勤システムの集計を分析・検討する。 ・教職員アンケートで意識調査を行う。 ・会議の資料は事前配布する。

中間評価

各種指標結果	
○出退勤システムにおける超過勤務者・時間外勤務時間集計結果（教職員 36 人） ・ 4 月… 16 人（平均 67 h） ・ 5 月… 16 人（平均 68 h） ・ 6 月… 10 人（平均 57 h） ・ 7 月… 10 人（平均 53 h） ・ 8 月… 0 人（平均 26 h） ・ 9 月… 11 人（平均 57 h） ・ 3 か月連続超過勤務者… 7 人	
○職員会議の資料は事前に配布することができた。	
自己評価	分析（成果と課題）
	○留守番電話機能を設定したことで、教職員が保護者対応の時間帯を配慮するようになった。
	○職員会議の資料を事前配布することで、会議時間の短縮を図ることができた。
	○「No 残業デー」（水曜日）についての意識は高まってきたように感じる。
	○超過勤務の分析 ・ 4・5 月…年度当初の分掌・係・学級・授業の準備で増加する。 ・ 5・6・7 月…部活動の公式戦やコンクール等で休日の勤務が増加する。 ・ 9 月…文化祭準備や秋季大会予選で平日、休日を問わず増加する。 ・上記の理由から、業務内容の削減は難しいので、各自が自身のライフワークバランスについて考える習慣と意識を高めることが課題である。 ・若手の教職員の超過勤務が多いので、職場内の OJT の意識を高め、業務の効率化を図ることが課題である。
分析を踏まえた取組の改善	
○各自がライフワークバランスと仕事の効率化を図るよう意識改革を呼びかける。	
○OJT を浸透させ、中堅・ベテラン教職員と若手教職員が仕事の分担を図り、時間短縮を図る。	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
・ 出退勤システムの集計を分析・検討する。 ・ 教職員アンケートで意識調査を行う。	

	・会議の資料は事前配布する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・留守番電話設置や「No 残業デー」の取組は、保護者からの不満もないので奨励したい。 ・大量の報告書を求められていると聞いているが減らすことはできないのか。 ・部活動ガイドラインに従って、土日のどちらか1日を休むことで超過勤務を減らせないか。 ・「働き方改革」により子どもと関わる時間が増えたと感じるか、また子どもたちはどのように受け取っているか。等のご意見・ご質問ができました。 ・教職に意欲をもって志願した学生たちが教員になった時、「働き方改革」の意識が浸透した職場で「もっとやりたかったのに」と熱量の違いに落胆しないか心配である。 ・支援土曜学習で取り組んでいる漢字検定・英語検定の監督補助について協力させていただく。 ・支援夏季休業中の土日および学校閉鎖期間の校内水やりを行うことで、教職員の負担を軽減する。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 ○出退勤システムにおける超過勤務者・時間外勤務時間集計結果（教職員36人） ・10月…16人（平均66h） ・11月…16人（平均59h） ・12月…10人（平均49h） ・1月…10人（平均46.5h） ・3か月連続超過勤務者…6人 ○『働き方改革』についての教職員アンケート意識調査結果 ・理想のライフスタイル…「残業せず平日もプライベートの時間を確保したい」 ・『働き方改革』で困っていること・・・「休憩時間をとらなくなった」 「部活動ガイドラインで思うように指導できない」 ・心がけ、工夫…「校務を時間内に終わらせるよう集中した」「部活動の活動日を減らした」 ・課題…「仕事が多すぎて残業せざるを得ない」 ・効果…「効果は表れていない、感じられない」
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ○3学期に入って、退勤時間が全体的に早まっている。更に、意識を高めることが必要である。 ○『働き方改革』への意識は表れてきたが、「校務が多い」「部活動での指導がしたい」等のジレンマが伺える。 ○個人のタイムマネジメントだけでは限界があるので、業務の効率化とマンパワーの活用を進める。 分析を踏まえた取組の改善 ○個人の意識改革とOJTを踏まえた仕事の分担や声かけができる職場作りを目指す。 ○会議の資料は事前に配布することができたので、来年度も引き続き行う。 ○学生ボランティアや部活動指導員を活用する。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	--